



京機短信

KEIKI short letter

No.399 2024.12.05

京機会(京都大学機械系同窓会)

tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <http://www.keikikai.jp>

編集責任者 京機短信編集委員会

目次

- ・ 会長就任挨拶(2024年)……仲田摩智(pp.2-3)
- ・ 2025年度京機会総会・講演会・懇親会開催報告……細田 耕(pp.4-7)
- ・ 関東支部 異業種交流会のご報告 ～榎木哲夫先生講演会を開催～……尾形秀樹(p.8)
- ・ 文政/令和・江戸/東京散歩(その6) 江戸の寺社と現代の副都心……藤川卓爾(pp.9-17)
- ・ 京岬会(昭和33年卒業同期会)第65回総会報告……中村弥寿家(pp.18-19)

キャンパスも色づきました。写真は北部構内の銀杏並木です。



会長就任挨拶（2024年）

仲田摩智（S54 /1979卒）



2024年11月3日の京機会総会にて会長を拝命しました。京機会との関わりは会社入社の頃から10年程度に一度の当番幹事会社の仕事を繰り返してきてただけですので、歴代の会長が立派に果たして来られたこの役目が果たせるのか心配な限りです。皆様のご指導とご支援があってこそ務まると考えておりますので、どうか宜しくお願い致します。

さて、本会は明治30年に設立され、会員が1万名を数える一大同窓会です。その活動も、京大工学系同窓会連絡会という上部組織があり、同窓会活動に関する情報交換をしておりますが、京機会ほど本部、支部それぞれ工夫を凝らして活動をしている同窓会はありません。前々及び前会長の時代にはコロナ禍で活動ができずに色々ご苦勞をされた時期もありましたが、これだけの伝統があり人材が集い得る組織ですから、是非、種々の活動を継続・発展させて行きたいと思っております。

そのためには会員各層の方々から魅力を感じていただける活動であることがポイントです。各層といっても、現役の学生から、現役で活躍される企業の方、あるいは経営に携わる方、また、教育関係で活躍される方、さらにはそうした活動から離れてボランティアや悠々自適の方々まで、非常に幅広い人々が本会に属されています。京機会に属する条件は唯一、京都大学機械工学系に、学生として、或いは教員として籍を置かれたという点だけです。この条件を満たした方は多士済々。学術研究分野のみならず色々な業界の多方面でご活躍されています。こうした方々と京機会だということ人で脈を築けるのが本会の最も良い点であり、重要な役割だと考えております。

特に現役世代の方々こそ、この人脈を活用して、業務でもご自分の関心事でも、その知識の範囲を広げ、深度化を図る機会にさせていただきたいものです。

今回会長を引き受けるにあたり、本会が抱える課題等をご教示いただきました。第一には、①現役を退かれ時間的に余裕がある方は別にして現役の人や若手の参加が少ない点、②会費を納入いただける人数が減少傾向にある点です。会員数の減少及び参加層の限定が進むと活動が低迷します。皆様からの会費で本会が成り立っていることから種々の活動を縮小せざるを得ないことを意味します。会費を払っていただくだけの魅力度向上を検討すると共に活動方法にも目を向けて本課題に臨んでいく必要があります。

もう一つは、個人情報管理の厳格化という時流に適合した名簿管理をどうするか、という課題です。ここ数年かけて名簿を CD-ROM から WEB 化へという検討を行っていただきました。最終段階で個人情報保護という観点で確認した結果、WEB 化に慎重にならざるを得ないことが判明しました。名簿管理は同窓会の重要な使命ですが、一方で情報流出の恐ろしさは色々報道されている通りで、京機会に安心して属していただくためには、情報管理の確実性確保は避けて通れません。何らかの形で継続的に名簿情報が更新されていく仕組みを探索していきたいと考えております。

これらの課題に直ぐには対策案が見えませんが、本会をできるだけ多くの層の方々に「入っていてよかった」と思っただけの会になるよう、運営や活動方法を模索していきたいと考えております。

京機会のイベントもコロナ禍を経験し、リモートワークという場所を選ばず会合に参加できる手法を経験しました。最近は対面とリモートが併設されることが多くなり、容易に参加できる便利さを感じると共に、改めて Face to Face でないと得られない情報密度の濃さや人との繋がりを楽しさを感じていらっしゃると思います。リモート併用という手法も活用して、団塊の世代、新人類、団塊ジュニア世代、ミレニウム世代、Z 世代と幅広い世代の方々が楽しく情報交換や交流を図っていただけるように努力をしていきたいと思っております。

こうした活動を通して、世代間や世代を超えた人の繋がりを拡げて、京機会活動を盛り上げていきましょう。

皆さま方の、更なるご支援とご協力を、是非よろしくお願いいたします。

2025 年度京機会総会・講演会・懇親会開催報告

細田 耕 (S63/1988卒)

令和6年11月3日(日・祝)に、吉田キャンパス物理系校舎ならびに百周年時計台記念館にて2025年度京機会総会が開催されました。現地にて72名、オンラインにて20名の会員に参加いただきました。

総会は、京機会会長である千々木亨さん(S54/1979卒)のご挨拶から始まりました。その後、代表幹事である平方寛之さん(H9/1997卒)から、教室の現状報告、新任・昇任教員の紹介、2024年度活動報告が行われました。引き続き、総会での議論に進み、①会則変更、②2024年度決算報告・監査報告、③役員改選、④2025年度活動予定、⑤2025年度予算、についての議論、報告が行われました。特に役員改選において、2025年新会長として仲田摩智(S54/1979卒)さんが選出され、ご挨拶をいただきました。(2025年度役員名簿は7ページをご参照下さい。)

続いて、関西支部、関東支部、中部支部、中国四国支部、九州支部からの報告がありました。



千々木亨会長のご挨拶



仲田摩智新会長のご挨拶

続いて特別講演会では、関東支部の支部長でもある、村上弘記さん(S60/1985卒：(株)IHI 技術開発本部 技監)による「日本のロボット発展とともに歩んだ研究開発の日々」と題して、1980年代の社内での極限作業用ロボットシステムの開発、荷物のローディング、ピッキングロボットシステム開発、ハニカムセグメ

ント組み立てロボット、2005年愛知万博先進的ロボットのフィールド実証など、力制御を実用ロボットに実装するお話を中心に、様々な経験談をいただきました。



村上弘記さんによる特別講演（左）と会場からの質問の様子（右）

その後、場所を移して、土屋智由さん（H3/1991卒）の司会で懇親会を開催しました。仲田新会長にご挨拶をいただいた後、中川哲さん（S38/1963卒）の乾杯のご発声により会が始まりました。前半は京機会活動において尽力いただいた会員の表彰式を行いました。また、京都大学フォーミュラ KART からの本年度の活動報告もあり、大いに盛り上がりました。



会長賞 永井さん

会長賞 久保さん

活動優秀賞 成瀬さん

賑やかに盛り上がる中、最後は、全員で肩を組みながら「琵琶湖周航の歌」を斉唱し、全体の集合写真を撮った後、野口峻さん（R5/2023卒）の一本絞めをもって閉会となりました。多くの参加者で最後まで話は尽きず、おかげさまで大変な盛会となりました。あらためまして、ご参加いただきました皆様様に厚く御礼申し上げます。



◎は大学外の役員

2025年度 京 機 会 役 員

2024年12月1日

役 職	氏 名	卒業年次	所 属
【会長】	仲田 摩智◎	1979年	産業技術短期大学 学長
【副会長】 教室側代表 関西支部 関東支部 中部支部 中国・四国支部 九州支部 学生会	松原 厚 中部 主敬◎ 村上 弘記◎ 近藤 功一◎ 豊嶋 範男◎ 中村 久志◎ 野口 峻◎	1985年 1981年 1985年 1986年 1982年 1981年 2023年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授 京都大学名誉教授/京都職業能力開発短期大学校 校長 (株)IHI (株)アドビックス 住友重機械工業(株) (元)TOTO(株) 京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 修士1回生
【監事】	塩路 昌宏◎ (中部 主敬◎)	1975年 1981年	京都大学名誉教授 (注)2025年1月より就任予定
【代表幹事】 【代表幹事】副幹事	平方 寛之 土屋 智由	1997年 1991年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授 京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
【会計担当】正幹事 【会計担当】副幹事	小森 雅晴 黒瀬 良一	1995年 1993年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授 京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
【常任幹事】 地区代表幹事 (関西) " (関東) " (中部) " (中国・四国) " (九州) 大学側幹事 (機械系) 大学側幹事 (情報) 大学側幹事 (エネルギー) 大学側幹事 (関西支部担当) 正幹事 " (関西支部担当) 副幹事 " (関東支部担当) 正幹事 " (関東支部担当) 副幹事(工場見学担当) " (中部支部担当) 正幹事 " (中部支部担当) 副幹事(工場見学担当) " (中国・四国支部担当) 正幹事 " (中国・四国支部担当) 副幹事 " (九州支部担当) 正幹事 " (九州支部担当) 副幹事 " (名簿担当) 正幹事 " (名簿担当) 副幹事 " (ニュース・HP担当) 正幹事 <名称変更> " (ニュース・HP担当) 副幹事 <名称変更> " (ニュース・HP担当) 副幹事 <名称変更> " (学生会担当) 正幹事 " (学生会担当) 副幹事 学生会幹事	吉永 光宏◎ 古賀 響◎ 竹内 賢一◎ 佐藤 重喜◎ 長友 志朗◎ 西脇 眞二 大塚 敏之 川那辺 洋 澄川 貴志 井上 康博 平山 朋子 土屋 智由 西脇 眞二 横川 隆司 安達 泰治 花崎 秀史 黒瀬 良一 長田 孝二 泉井 一浩 岩井 裕 嶋田 隆広 平山 朋子 細田 耕 長田 孝二 林 潤 桑原 和暉	1993年 1995年 1995年 1993年 1999年 1986年 1990年 1990年 1996年 1998年 1997年 1991年 1986年 2000年 1990年 1984年 1993年 1992年 1996年 1993年 2004年 1997年 1988年 1992年 2003年	パナソニックプロダクションエンジニアリング(株) (株)本田技術研究所 トヨタ自動車(株) 四国旅客鉄道(株) 日揮グローバル(株) 京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授 京都大学 大学院 情報学研究所 システム科学専攻 教授 京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻 教授 京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻 教授 京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授 京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授 京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授 京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授 京都大学 工学部物理工学科 機械システム学コース4回生
【顧問】	松久 寛◎ 野村 剛◎ 千々木 亨◎	1970年 1976年 1979年	京都大学名誉教授 京都大学 成長戦略本部 フェロー、(元)パナソニック(株) 西日本ペトボトルリサイクル(株)代表取締役社長
【運営委員会】	<委員長> 鈴木 基史(1986) 中部 主敬◎、村上 弘記◎、近藤 功一◎、豊嶋 範男◎、中村 久志◎、蓮尾 昌裕(1986) 土屋 智由、小森 雅晴、平方 寛之、松久 寛◎、正井健太郎(1982)◎、森 雅彦(1985)◎		
【事務局】	段 智子、山口 美賀◎(2003年)		
【工学系同窓会連絡会】	鈴木 基史、仲田 摩智◎		

◎は2025年度新任

関東支部 異業種交流会のご報告 ～榎木哲夫先生講演会を開催～

尾形秀樹（H6/1994卒）

関東支部では毎年「異業種交流会」と題し、さまざまな業界との交流会を開催している。今年は京都大学理事・副学長の榎木哲夫先生（S56/1981卒）をお招きし、「大学のコンプライアンスにおけるシステム工学の実践：リスク管理とレジリエンス」と題したご講演をいただいた。現在の大学が抱えるコンプライアンス課題として、研究不正がなぜ起きるのか、対策としてどのようにレジリエンスを高めるのか、というお話から始まり、安全保障技術やデュアルユースに関する技術開発に携わる研究者としてのジレンマなど、現在の大学が置かれた状況をととても詳しくお話していただいた。各地からご参加くださった31名の参加者が、この興味深いご講演に聞き入った。さらに講演のあとの懇親会は旧交を温める濃密な場となって賑わった。この場を借りてご来場くださった方々にあらためて御礼を申し上げます。

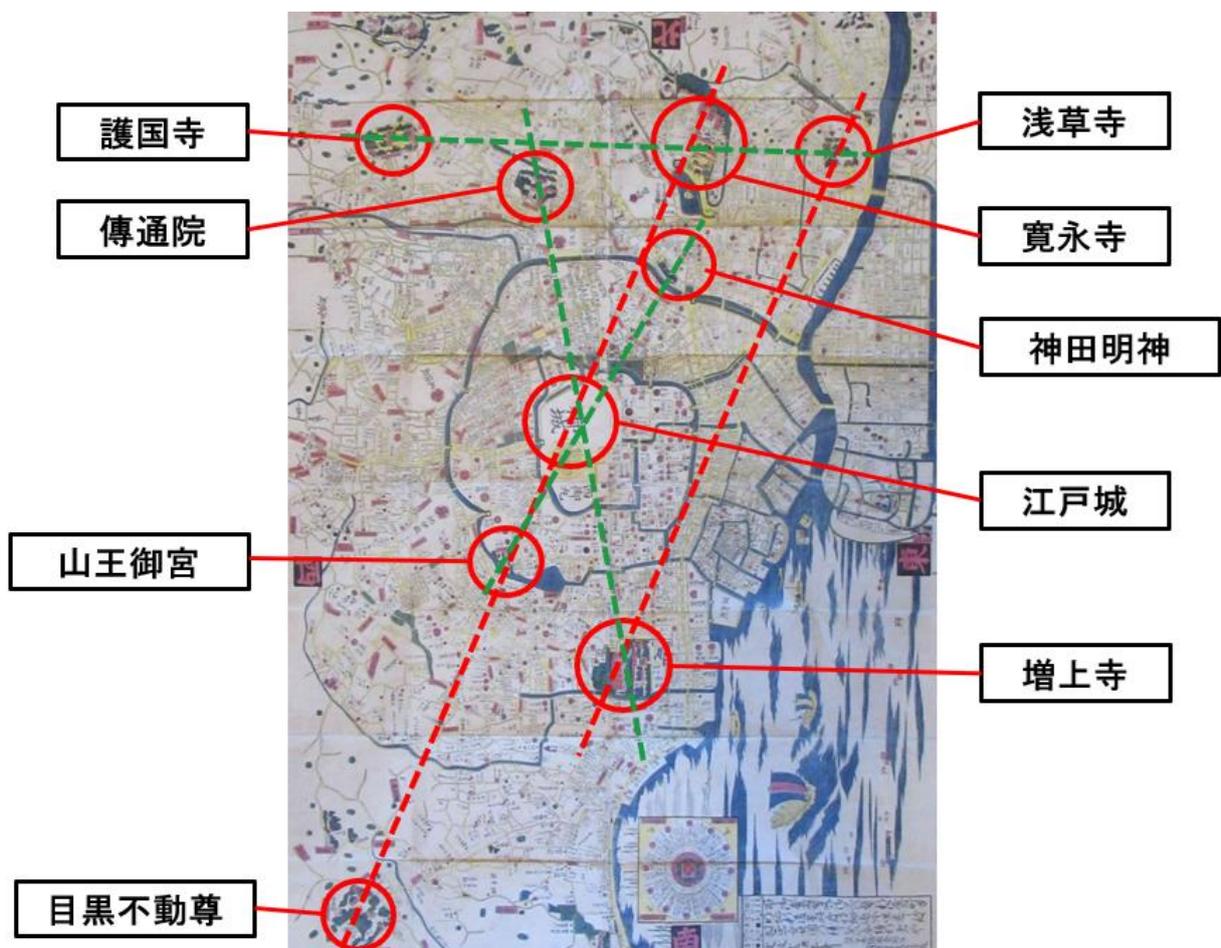
なお、会場には目白の高級住宅街にたたずむ日立目白クラブをお借りした。この建物はもともと1928（昭和3）年に学習院の寄宿舍として建設されたもので、東京都選定歴史的建造物に指定されている。スパニッシュ様式を取り入れた外観と、直線的な幾何学模様を活かしたアール・デコ調の内装が、ほぼ当時のまま保存されている。これは多くの参加者の関心をひき、許可をもらって建物内の講演会場以外の部屋を見学される方もいた。そのクラシックで気品にあふれる雰囲気は、同窓会として最高にふさわしい会場であった。



文政/令和・江戸/東京散歩（その6） 江戸の寺社と現代の副都心

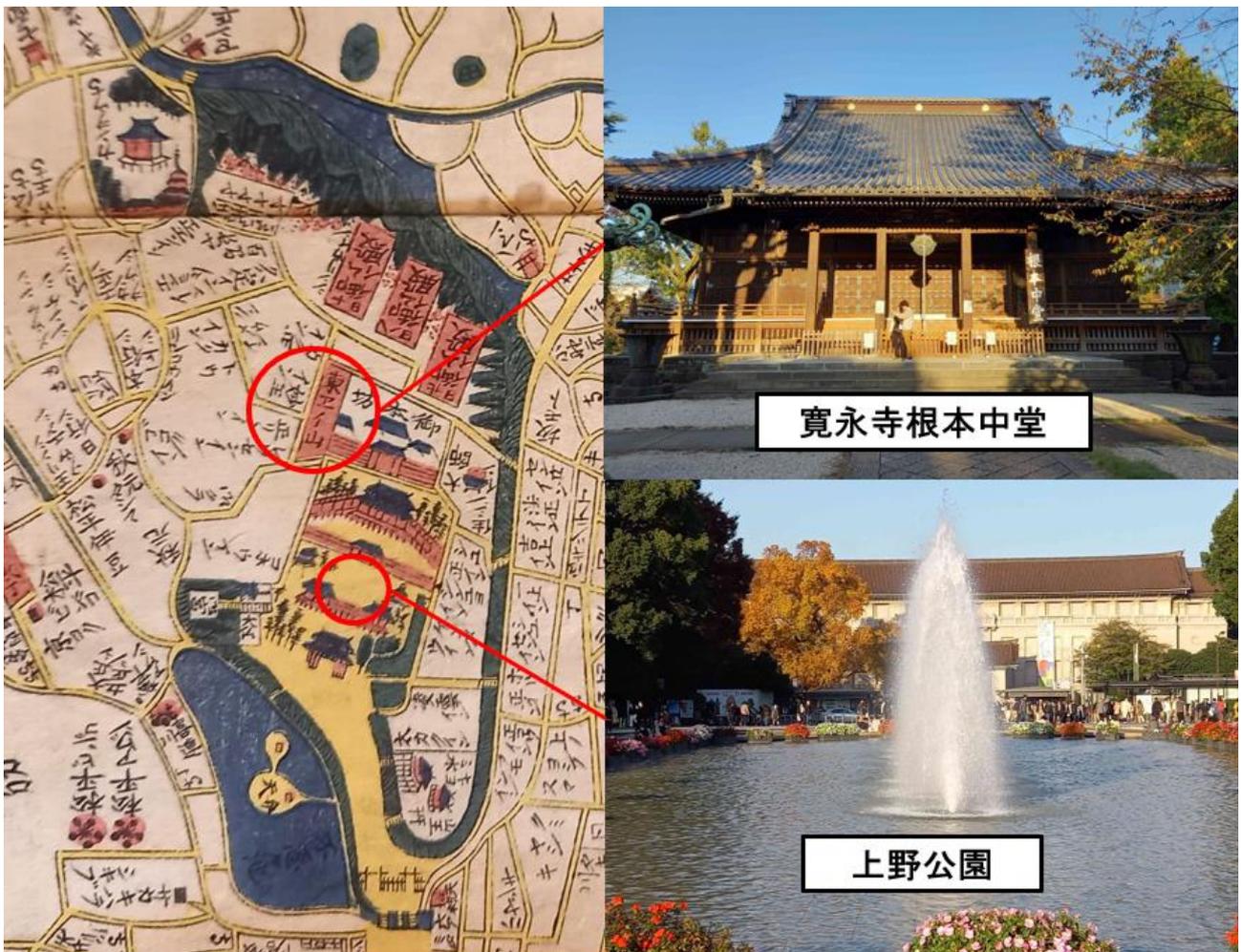
藤川卓爾（S42/1967卒）

江戸城の周りには江戸城を護る寺社がある。鬼門の方角には寛永寺、裏鬼門の方角には山王御宮（日枝神社）がある。さらにその先には目黒不動尊がある。これらの寺社は一直線上に並んでいる。浅草寺と増上寺を結ぶ線はこの線と平行である。神田明神と山王御宮も江戸城を挟んで一直線上にある。江戸城の北の方角には傳通院、南の方向には増上寺がある。これらも江戸城を挟んで一直線上に並んでいる。さらに江戸城の北方の護国寺、寛永寺、浅草寺も一直線上に並んでいる。



江戸城と寺社の配置

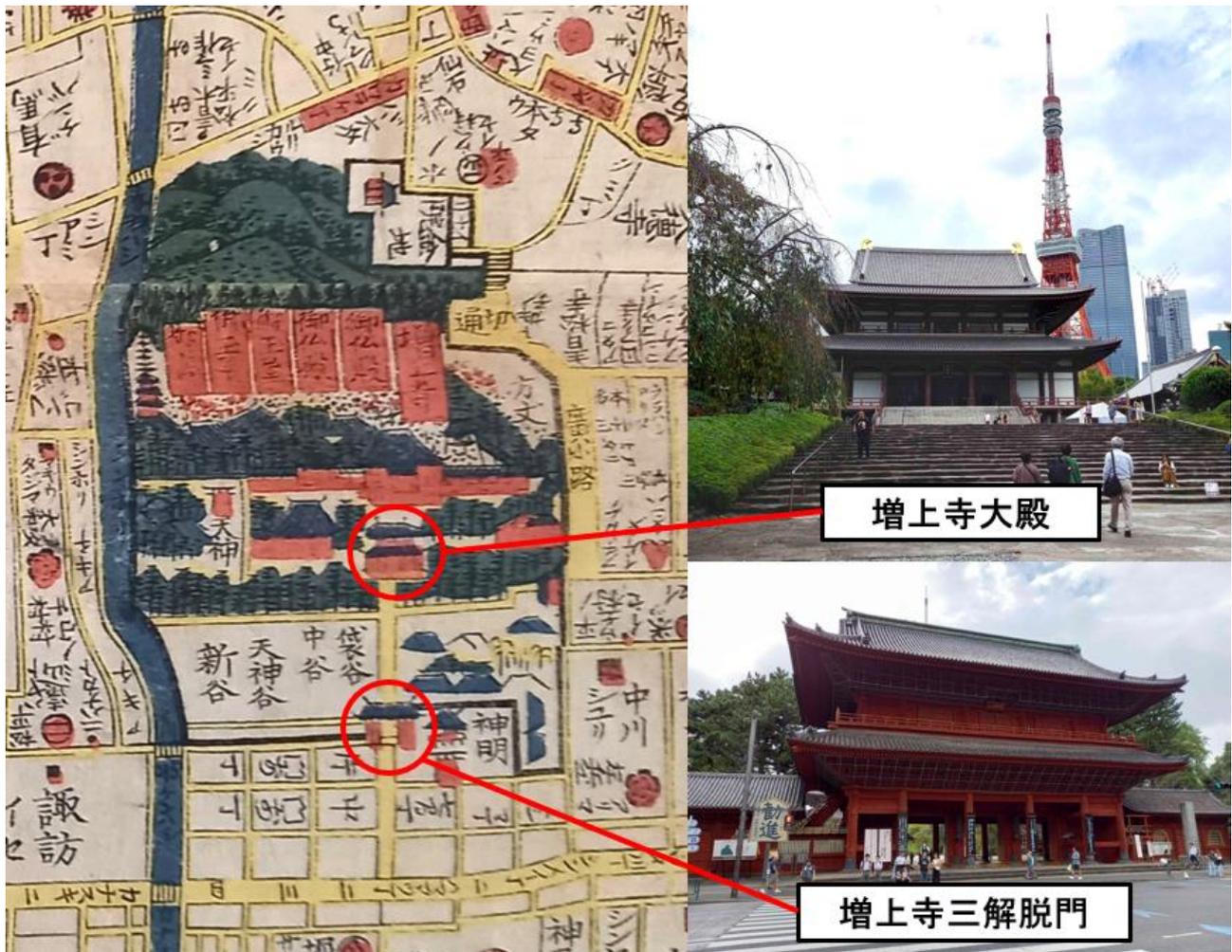
寛永寺は天台宗の別格大本山の寺で、本尊は薬師瑠璃光如来である。寛永 2 (1625) 年に徳川幕府の安泰と万民の平安を祈願するため、江戸城の鬼門（東北方向）にあたる上野の台地に天海大僧正によって建立された。京都御所の鬼門を封じるべく建てられた比叡山延暦寺に倣い山号を東叡山としている。眼下の不忍池は琵琶湖に見立てられ、竹生島に対応する中の島に弁財天を祀っている。徳川将軍家の菩提寺であり、歴代将軍 15 人のうち 6 人が寛永寺に祀られている。初代将軍家康は日光東照宮、3 代将軍家光は日光輪王寺に祀られている。15 代将軍慶喜は隣接する谷中墓地に祀られている。幕末の戊辰戦争時、彰義隊の戦（上野戦争）の戦場となり、根本中堂をはじめ主要な堂宇を焼失した。境内地の大部分は現在上野公園や JR 上野駅になっている。



東叡山寛永寺

徳川家の菩提寺は天台宗の寛永寺と浄土宗の増上寺とに分かれている。増上寺は豊島郡貝塚村（現在の千代田区）にあった真言宗の光明寺を起源とし、後に浄

土宗に改宗して増上寺と改め、一時日比谷に移ったが江戸城の拡張に伴い慶長 3 (1598) 年、徳川家康によって現在地の芝へ移された。正式名は三縁山広度院増上寺、本尊は阿弥陀如来である。寛永寺を江戸の鬼門である上野に配したのに対応して、増上寺を裏鬼門の芝に配したものと考えられる。増上寺には徳川歴代将軍 15 人のうち 6 人が祀られている。



三縁山広度院増上寺

山王御宮（日枝神社）は鎌倉時代に江戸氏が山王宮を祀り、文明 10（1478）年、太田道灌が江戸城内に川越の無量寿寺（現喜多院・中院）境内の山王社を勧請したことに由来する。天正 18（1590）年に徳川家康が江戸城を居城とするにあたり、「徳川家の守り神」、「江戸の産土神」とした。その後、江戸城拡張にともない、寛永期（1624～44 年）までに半蔵門外に移り、万治 2（1659）年に永田馬場の現在地に遷座した。主祭神は大山咋神である。「日枝」とは近江国日枝山（比叡山）に因む名であり、大津市坂本の日吉大社を本祠とする。



山王御宮（日枝神社）

目黒不動は起源を平安時代に遡る天台宗の古刹で正式名は泰叡山瀧泉寺、本尊は不動明王である。3代将軍徳川家光の庇護を受けて伽藍が復興した。目黒不動・目白不動・目赤不動が江戸三大不動と言われているが、そのうちの一つである。また、江戸五色不動と言われるものもありそのうちの一つでもある。墓地には甘藷先生として知られる青木昆陽の墓がある。



目黒不動尊（泰叡山瀧泉寺）

浅草寺は、1400年近い歴史をもつ観音霊場で山号は金龍山である。宗派は天台宗系単立の聖観音宗、本尊は聖観世音菩薩である。寺伝によると本尊像は飛鳥時代に投網の中から発見された。観音様を篤く信仰していた源頼朝は、平家追討の戦陣を進めて下総から武蔵国へ入ったときに浅草寺で勝利を祈願した。江戸城の鬼門に当たること、天台宗の古刹として名高いこと、源頼朝をはじめとする源氏一族に信仰されてきた由緒深き寺であることから徳川幕府の祈願所とされた。現在は東京観光の人気スポットとして多くの参拝者や外国人観光客を集めている。



金龍山浅草寺

神田明神は天平2(730)年に武蔵国豊島郡芝崎村に大己貴命(おこなむちのみこと)が祀られたことに由来する。天慶3(940)年に平将門が関東で反乱を起こして討伐された後にこの付近にその霊を祀る塚ができた。これが現在の将門塚(首塚)である。神田明神は、江戸城の拡張にともなって、まず駿河台に移されさらに現在地に遷座した。正式名は神田神社、祭神は大己貴命、少彦名命、平将門命である。徳川家康が関ヶ原の戦いに臨む際に戦勝のご祈祷を行なった。神田明神は江戸城の鬼門の方角に当たることから、守護神に位置付けられ、将軍家の信仰を集めた山王御宮に対して、「江戸の総鎮守」とされた。



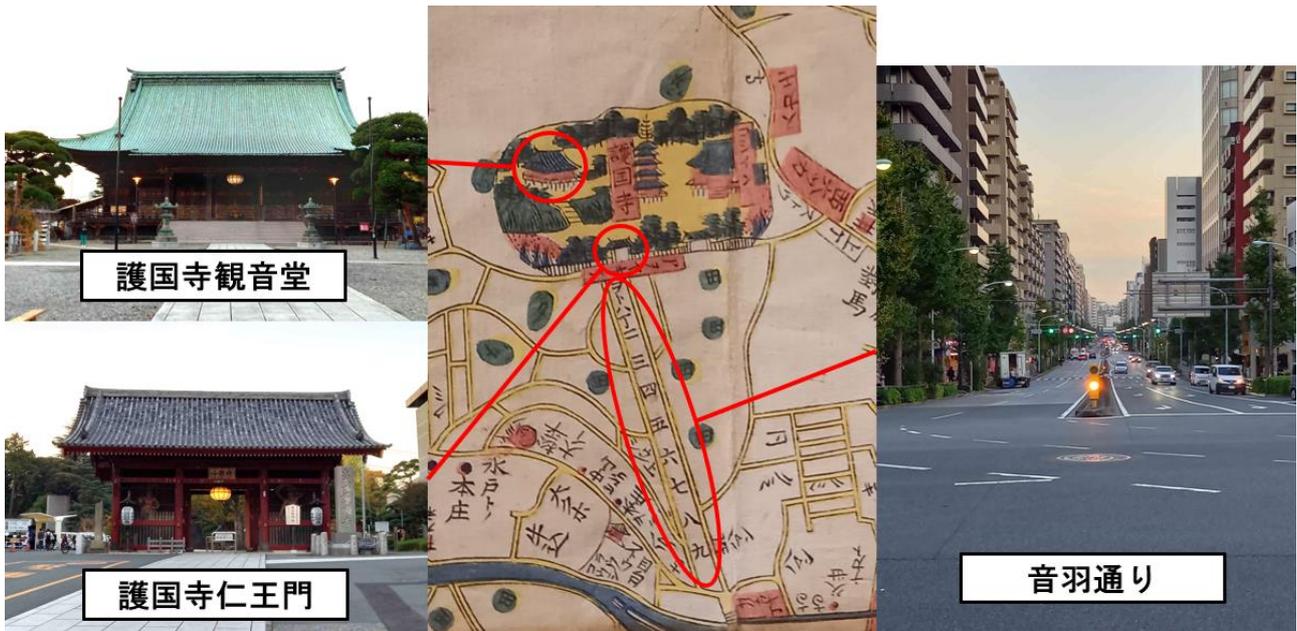
神田明神（神田神社）

徳川家康の生母である於大の方は京都で亡くなったが、家康が幕府を開いた江戸の地で眠りたいとの遺志があったという。増上寺の国師は増上寺開山の上人の故地に寺を建立して祀ることを進言した。この寺の正式名称は無量山寿経寺傳通院、本尊は阿弥陀如来、傳通院は於大の方の法名である。傳通院は増上寺・上野の寛永寺と並んで江戸の三霊山と称され、増上寺は徳川家の男寺、傳通院は女寺とされた。墓地には於大の方、千姫、清河八郎、佐藤春夫、柴田錬三郎、浪越徳次郎、堺屋太一の墓がある。



無量山寿経寺傳通院

護国寺は5代将軍綱吉が生母桂昌院の願いをうけて建立した真言宗の寺である。正式名は神齡山悉地院大聖護国寺で、本尊は如意輪観世音菩薩である。本堂（観音堂）、仁王門とも火災、震災、空襲を逃れて創建当時の様相を保っている。境内に三条実美、山縣有朋、大隈重信、ジョサイア・コンドルの墓所がある。門前の約1キロメートルに及ぶ一直線の参道は音羽通りとして現在もその姿を留めている。

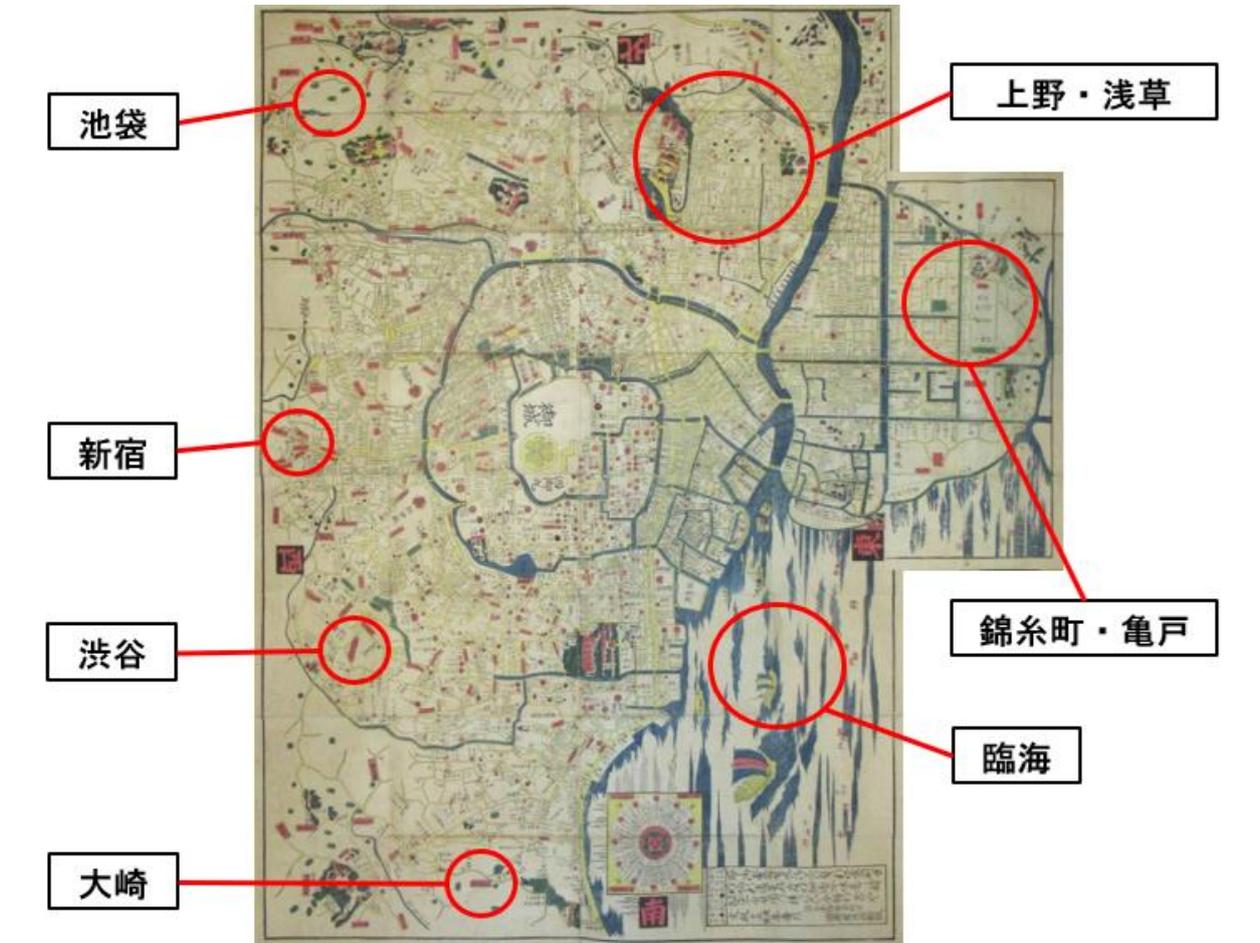


神齡山悉地院大聖護国寺

東京の「都心」と言えば千代田区、中央区、港区を指す。東京都は都の機能分散を目的に、7つの地区を「副都心」に指定している（括弧内は指定年）。

- ・ 新宿副都心（1958年）
- ・ 渋谷副都心（1958年）
- ・ 池袋副都心（1958年）
- ・ 上野・浅草副都心（1982年）
- ・ 錦糸町・亀戸副都心（1982年）
- ・ 大崎副都心（1982年）
- ・ 臨海副都心（1995年）

昔の地図上にこれらの副都心の場所を重ねると次のようである。



昔の地図上の現代の副都心

新宿は甲州街道と川越道の分岐点である。甲州街道の最初の宿場は高井戸であったが、日本橋から遠いので中間のこの位置に宿場を置いた。内藤家の下屋敷（現在の新宿御苑）に近いのでこの宿場は「内藤新宿」と呼ばれた。地図には「内トウシク」、「大木戸」、「シン宿」、「四谷追分」などの記載がある。「大木戸」は甲州街道における江戸への出入り口であった。「四谷追分」は現在の新宿三丁目交差点付近である。「天リウ寺」と「イナリ」は「天龍寺」と「雷電稲荷神社」である。



新宿付近の今昔

渋谷はこの地図では「此ノヘンシフヤ」とある。大山街道（現在の国道 246 号）沿いの集落であった。

池袋付近には何も描かれていない。

上野・浅草には昔から寛永寺、浅草寺がある。

錦糸町・亀戸については、亀戸天神が描かれている。

大崎は「此ヘンオオサキ」とある。

臨海副都心は埋立地にあるので、この地図では海の上である。隅田川の河口に「石河シマ」が描かれている。



渋谷・大崎・臨海副都心

現在の東京は昔の江戸を中心として発展・拡大して行ったことが分かる。

おわり

京岬会（昭和33年卒業同期会）第65回総会報告

中村弥寿家（S33/1958卒）

恒例の京岬会総会を令和6年10月30日（水）に沼津リバーサイドホテルにて開催した。梅本常任幹事の企画、手配のもと昨年と同じメンバーの7名の参加であった。



後左から、小澤、中村（弥）、梅本、岸本、 前左から、造田、新田、倉田

会場はホテル内の料亭「かの川」で行った。

梅本常任幹事の挨拶、経過説明後、岸本君の乾杯の音頭で始まった。欠席の方々の近況の情報交換、昔話し、雑談の後、各人で自由課題のショートスピーチを行った。本年は天下、国家、世界経済の話は殆ど無く、個人の健康状況、管理、日常生活の話が多かった。

- 造田君 車の運転継続中（頭の活性化に効果）、街路歩行中に転倒で大怪我したが無事回復。歯は全て自分の歯を維持。
- 中村 登山は脚力低下で殆ど出来ず、ロープウェイやバスで高所に出かけている（千畳敷カール、乗鞍高原）。日本製鐵の US スチール買収案件に興味をもっている。
- 新田君 月・地球間の現象の力学的な解析の精度を上げている。4 年前の自転車転倒事故での怪我の後遺症が現在も続いている。歯はで全部自分の歯である（コンクール洗浄液の効果）。
- 倉田君 神宮外苑の再開発で自然を失う悲しみを唄う自由詩「樹の語らい」を披露。その一節「樹は地球に生きる人間のワル面たちの神をも無視する無謀を語る」
- 岸本君 車は現在も運転中（生活に必要、車は少ない）。水虫治療で薬を塗り続けたが回復せず別の医者に診断を受けたところ、水虫は治り薬による薬焼けとのことで薬を止めたら回復した。
- 小澤君 趣味の料理、習字、釣りを続けている。最近の釣果は大ダイ 9 匹ゲット。急激な体重減少は健康異常ノシグナルで注意が必要。物事は良、悪で考えると腹がたつのでチガイ（違い）にするとストレスが緩和される。
- 梅本君 満身創痍の難病と対応している。ストレスからか？ 2泊3日の温泉旅行をしたが効果無し。囲碁は継続中（ボケ防止に効果大）ゴルフは体力低下で止めた。

尚、

- ・当宴会はある人がホールインワンを 10 月に達成、その祝賀会も兼ねた。7 人中ホールインワン達成者は 3 回（1 人）2 回（1 人）1 回（2 人）で保険会社には迷惑な方々である。
 - ・京岬会ゴルフ会（5 月、10 月）は参加人数が減少したことで本年をもって終了とし、来年以降は有志のゴルフ会とすることになった。
- 翌日、岸本ゴルフ幹事のもと、岸本、小澤、中村の昨年と同じメンバーの 3 名が沼津ゴルフクラブで、快晴の下、楽しくプレイした。優勝は実力者の小澤君であった。